

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮西小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	語句の関係や漢字、計算など基礎的・基本的な知識・技能の定着が乏しいため、引き続き定着を図る努力が必要である。国語においては、ただ漢字を書いて覚えるのではなく、熟語や使い方など、意味も含めての理解を目指す。言葉集めや意味調べをしたり、作文を書く際に漢字を用いたり、語句の関係を意識したりするなど、「漢字や言葉を使うこと」をさせる取組を設定したい。また、算数においては、当該学年の内容だけでなく、既習内容も復習する機会を設けたい。そのためには、本校の業前の時間に位置付けられている「まなぶくんタイム」で、ドリルパークを活用していきたい。
思考・判断・表現	国語では、「読むこと」「書くこと」に課題があるため、読書の時間を設けたり、短文を書く活動を取り入れたりするなど、「読むこと」「書くこと」自体への抵抗を軽減することを目指したい。また、国語だけでなく、さまざまな教科で、文章や資料や表、グラフなど様々な情報を結び付け必要な内容を読み取り、自分の考えが伝わるように表現を工夫したりするなど教師が教科横断的な視点をもって取り組ませるようにしたい。それに加えて算数では、見通しをもってから問題を解いたり、立式する根拠を明確にもつなど情報を整理してから問題解決に取り組ませたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 主語と述語の関係や、除法、減法の計算など基礎的、基本的な知識・技能の定着が乏しい。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 個人差が大きい。反復・習熟のための時間の確保が難しい。</p>	<p>⇒ 業前の時間の活動「まなぶくんタイム」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。その際、「ドリルパーク」等ICTによるデータを効果的に活用する。【毎週の業前の時間】それぞれの内容を学習する授業で丁寧に取り上げるのはもちろんのこと、関連する単元において既習事項と結び付けながら指導する。【該当する内容の授業】</p>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 国語科、算数科どちらにおいても、必要な情報を読み取り、活用する力に課題が見られる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 個人差が大きい。様々な情報を結び付け適切な情報をとらえる機会が十分に確保できていない。</p>	<p>⇒ 文章だけでなく、資料や表、グラフなど様々な情報から適切な情報をとらえることができるようにする。そのために、教師が教科横断的な視点を持ち、国語科や算数科以外の教科でも、情報の見方を示したり、児童同士で交流する時間を確保したりすることで、様々な情報を適切にとらえたり見方を増やしたりできるようにする。【該当する内容の授業】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	業前の時間の活動「まなぶくんタイム」のみならず、さまざまなタイミングで、ドリルパークをはじめ、百マス計算やプリントなどで基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。2年生では学校全体の教諭に九九を聞いてもらう取組を行い、確実な習得を図ることができた。また、日々の宿題においても、計算カードを継続的に行うことができた。
思考・判断・表現	B	児童同士の交流を活発に行い、違う考えに触れる機会を多く設定することができた。友達の考えと自分の考えを比較することで、自らの考えを広げたり、深めたりすることができた。また、読書活動や問題場面を整理する活動など、国語のみならず算数においても「読むこと」に向けての取組を行うことができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科では、漢字の書き取りに対して正答率が低く、無回答率も高くなっている。日頃の生活からよく使う言葉ではあるが、複数ある読み方と漢字が結びつかなかったと考えられる。長文を読むことや要約することにも抵抗感がみられる。語彙力不足であり、簡潔に書き表すことができない力が課題といえる。算数科では、目盛りを読み取ることに課題がみられた。授業の中では取り上げているものの、実生活ではデジタル表示が増え、時計をはじめ目盛りを読む経験が少なくなっていることも要因と考えられる。理科や家庭科では、はかりを用いることもあるため、教科横断的な実践がより重要であるといえる。	
思考・判断・表現	国語科、算数科どちらにおいても、複数の情報を結び付けたり、複数の情報から必要なものを整理したりする問題の正答率が低く、本校の課題である。「知識・技能」でも記述したが、長文を読むことに抵抗感がみられることも要因であると考えられる。また、算数科においては、立式をし、計算はできるものの、「なぜその式になるのか」「なぜその計算をするのか」の説明をすることが難しいようだ。日頃の授業でも実践していることだが、定着が乏しく、応用できていないといえる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>・国語では、当該各年の前の学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題に課題がみられた。同音のものが多くある漢字で正しいものを選べなかつたようである。また、文の中の語句の関係の理解、敬語の理解が乏しいことがうかがえる。類型別集計結果を見ると、どちらにも5割近くの児童が誤った解答を選んでいた。</p> <p>・算数では、計算のさまりや分数、小数、整数の混合した計算の方法の理解が乏しいことが分かった。解答類型別結果を見ると、単純に左から順番に計算する順序を選んでしまった児童や、「わる数が分数の場合は逆数にする」「小数0.1を分数1/10にする」ことを行わず計算してしまった児童がそれぞれ5割以上いることが分かった。</p>	
思考・判断・表現	<p>・国語では、書くこと、読むことについて市平均との差が多く見られた。特に、「文章と図表などを結び付けてなどして必要な情報を見つけて読むこと」、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」について、課題がみられた。4割近くの児童が誤った解答を選んでいた。</p> <p>・変化と関係の問題において、「数量が変わっても割合は変わらないこと」を理解している児童は市平均を上回った。この問題は実際にジューズを分けている動画を見てから答える問題であり、実生活で同様の経験があるために理解している児童が多いと考えられる。一方で、示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題に課題がみられた。文章の中にある数字をそのまま立式に用いており、情報を整理することをせずに問題に取り組んでいるようである。</p>	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	業前の時間の活動「まなぶくんタイム」のみならず、さまざまなタイミングで、ドリルパークをはじめ、百マス計算やプリントなどで基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。また、授業の中でも既習の事項を確認したり、単元の終わりに復習の時間を設けることをした。一方で、「まなぶくんタイム」を計画的に、かつ、児童の実態に合わせた活用をすることが困難であった。	変更なし
思考・判断・表現	B	視点を明確にして文章や資料の読み取りに取り組ませることができた。また、国語や算数だけでなく、社会や理科などでも資料を活用したり、既出の資料と関連付けたりする活動を取り入れることができた。子ども同士での交流も活発に取り入れた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)